

第1号 稲作管理特報

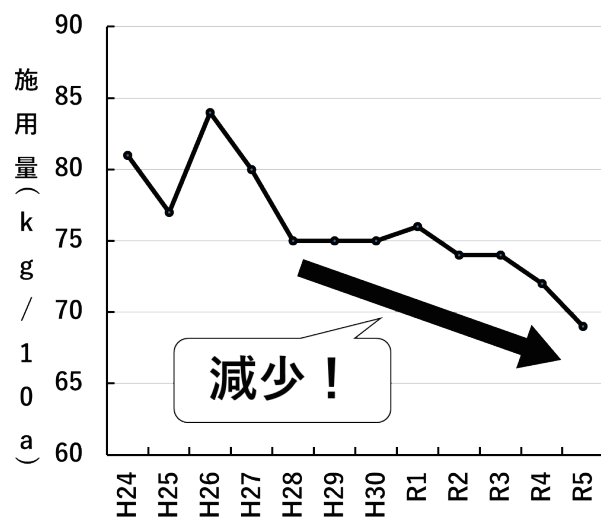
令和6年3月1日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

異常気象に土で勝つ!!「土づくり」は高温等の気象変動に打ち勝つ米づくりの土台です。品質の高い「みな穂米」生産のためには、土壌改良資材の施用が欠かせません!

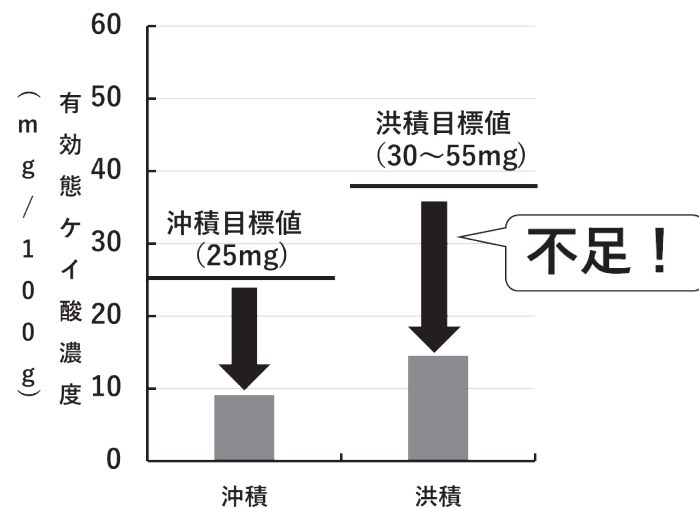
1 土づくり

昨年の異常高温により、コシヒカリの品質は大きく低下しました。今まで以上の対策が求められる中、特に品質への影響が大きいケイ酸質資材施用量は、やや減少傾向で、土壌中の有効態ケイ酸濃度は大幅に不足しています。積極的なケイ酸質資材の施用で、異常高温に負けない土づくりを行いましょ!

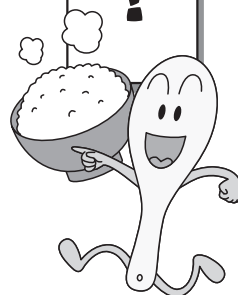
みな穂管内のケイ酸質資材施用量推移



R4,5有効態ケイ酸濃度(みな穂平均)



みな穂の米づくりは、まず「土づくり」から始めよう!!



ポイント1 ケイ酸質資材の継続的な施用

- ケイ酸分が不足すると
 - ①根腐れが起きやすくなる⇒活力低下、秋落ち
 - ②高温時の光合成量減少⇒収量、品質の低下
 - ③軟弱な稲体⇒倒伏、割粃、病害虫の発生
- 土壌改良資材の施用を中止すると土壌中のケイ酸含量は急激に低下します。**継続して施用することが大切です。**

標準施用量 (①、②、③より選択)

①	「珪酸石灰」160kg/10a と 「苦土重焼燐」20kg/10a ※
②	「シリカパンチF」120kg/10a施用
③	「アサヒニューテツ」160kg/10a と 「苦土重焼燐」20kg/10a ※

※ 洪積地帯 (山手) は「苦土重焼燐」40kg/10a施用

ポイント2 有機物の施用

- 堆肥や発酵けいふんは、土壌の透水性の改善や養分保持力を増進させる効果があるので確実に施用しましょう。
- 腐熟を早めるために、積雪がない場合は、早めに耕起作業を行いましょ。

主な有機質資材	施用量
●牛ふん堆肥	1 t /10a
●グリーンウェイブ2	60kg/10a
●発酵けいふん(春施用)	75kg/10a

ポイント3 トラクタの速度を落とし、15cm以上の深耕を確保

- 現状+3cmの深耕に努めましょ。
- 深耕により根の伸長が促進され、根域が拡大し、米の品質向上につながります。
- 作業速度を落とすとともに、ロータリの回転も低速 (PTO1速) にして、丁寧に作業を行いましょ。

2 農作業安全

近年、農業機械による農作業死亡事故が多く発生しています。農作業機械による事故を未然に防止するために、以下の対策を行いましょ。

- 農場等の危険箇所を事前に把握し、目印を設置するなど改善に努めましょ。
- 余裕をもった作業計画を立て、複数人での作業を心がけましょ。
- 機械等の使用前に、正しい使用方法を作業者全員に周知ましょ。
- トラクタ等を運転する時は、シートベルトやヘルメットを着用ましょ。



【ほ場の点検】

令和6年1月1日に発生した能登地震の影響により、水田や畦畔、周辺施設に被害がないか、本格的な春作業の前に点検や確認をましょ。万が一、地震の影響による農地等の被害が見られた場合は、営農指導員や振興センターまでご連絡ください。

主な情報提供内容

- ・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

